

海洋深層水利用学会2023年度第2回理事会

日時：2023年10月19日（水）12:00 - 13:20

場所：あいぼーと佐渡 会議室 及びWeb会議システムによるオンライン会議（Zoom）

役職	氏名・団体名（担当者）※1	出席	欠席	委任状
理事	池上 康之	○（オンライン）		
理事	井上 興治		●	●
理事	今田 千秋	○（オンライン）		
理事	大内 一之	○		
理事	大塚 耕司	○		
理事	岡村 壺	○		
理事	清水 勝公	○		
理事	高橋 正征	○		
理事	深見 公雄	○		
理事	安永 健	○		
理事	山田 勝久	○		
団体理事	沖縄県（鳩間 用一）	○（オンライン）		
団体理事	高知県（河野 敏夫）	○		
団体理事	富山県（田子 泰彦）		●	●
団体理事	マリノフォーラム21（日向野 純也）		●	

陪席

ホームページ編集委員会編集幹事	中川 光司	○（オンライン）		
論文誌編集委員会編集委員長	五十嵐 康弘	○（オンライン）		
論文誌編集委員会編集幹事	石井 晴人	●		
産公学連携推進委員	大貫 麻子	○（オンライン）		
産公学連携推進委員	鈴木 達雄	○（オンライン）		
事務局	有馬 博史	○		

※1 五十音順

議題

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 学会賞授賞審査委員会 | 【資料 1】 |
| 2. 研究発表企画委員会 | 【資料 2】 |
| 3. 論文誌編集委員会 | 【資料 3】 |
| 4. ニュースレター編集委員会 | 資料なし |
| 5. ホームページ編集委員会 | 【資料 4】 |
| 6. 利用促進委員会 | 【資料 5】 |
| 7. 日台韓交流委員会 | 【資料 6】 |

- | | |
|--------------------------|---------|
| 8. 総合戦略検討委員会 | 【資料 7】 |
| 9. 産公学連携推進委員会 | 【資料 8】 |
| 10. 学習推進委員会 | 【資料 9】 |
| 11 事務局 | 【資料 10】 |
| (a) 会員の動向 | |
| (b) 2024-2025年度理事会選挙について | |
| (c) その他 | |

2023年10月16日

2023年度海洋深層水利用学会賞の審査（選考）結果について

学会賞審査委員会委員長
池上康之

1. 選考経過

2023年4月1日より7月31日を期限に、会員各位に学会賞候補者の推薦依頼を行ったところ、期限内に学会賞1件の推薦があった（他薦1）。学会賞審査委員会は、「学会賞選考内規」に基づき、推薦された受賞候補者の推薦理由と推薦対象業績などに関して審議を行った結果、総合的に優れた業績であり、委員会の総意として今年度の学会賞に値するものとして、理事会に推薦し、承認された。全国大会で授賞式の予定。

2. 学会賞授賞候補者

沖縄県、沖縄県久米島町、久米島海洋深層水協議会

「沖縄県における海洋深層水の総合利活用による地域社会の活性化と持続性の強化」

沖縄県、久米島町および久米島海洋深層水協議会は、協同して深層水という地域資源を生かして安定した各種産業を興し、それらをもとに社会を活性化し持続性を高めることに成功しており、今後の大きな発展も期待される。特に、これまでの経緯と実績は、次の通りである。

ハワイ州は、1973年の第一次石油危機で島外からの必須資源の調達に強い危機を感じ、州立ハワイ自然エネルギー研究所（NELHA）設立し、以来、地域資源である深層水の研究と利用技術開発を進めて来た。同じ島嶼で成り立っている沖縄県も同様の危機感を強め、県の企画開発部が関連情報を収集・整理し、1995年7月には、当時の大田昌秀知事がNELHAを訪ね、ダニエル所長に沖縄県の深層水取水適地の選定協力を依頼した。ダニエル所長は、複数の候補地の中から沖縄県の深層水取水適地として久米島の真謝地区を推薦した。その後、沖縄県企画開発部企画調整室を中心に、NELHAと同じく海洋温度差発電（以下、温度差発電）の実現を視野に入れ、深層水取水深度は612mに決定した。温度差発電の実証のために、取水量は表層・深層ともに我が国最大となる日量13,000トンとなった。深層水などの利活用では、県の農林水産部が持続的な水産技術の研究開発、商工労働部が再生可能エネルギーの研究開発支援、そして久米島町が各課を上げて産業利用・地域振興の推進・大規模化構想・対外発信、さらに久米島海洋深層水協議会が民間での研究開発から商用迄の幅広い展開・大規模化構想・地域貢献に努め、沖縄県、久米島町、民間の三者が相互に協同・役割分担してそれぞれ地域特性を生かした新規産業を生み卓越した

成果を上げた。

主な業績として、研究所が技術開発したウイルス汚染のないクルマエビ稚仔生産と深層水の冷熱利用で安定したクルマエビ養殖生産が可能となり、深層水の清浄性と低温性を利用したウミブドウ生産、深層水の清浄性などと沖縄地方の特産薬用動植物を利用した化粧品類などで、新規事業が興り、年間 25 億円規模の売り上げを達成している。深層水という地域資源を生かして競争力のある独自の産業が複数誕生し、社会の活性化と自立性を高め、それは同時に持続性の強化も生んでいる。さらに 2013 年からは、県の事業として 100kW の温度差発電が世界で初めて連続運転に成功した。世界初のカキの陸上完全養殖をはじめとした新規事業希望が島内外（沖縄県以外も含め）に多数あり、今後、日量 10 万トンの深層水の需要の見込まれることが内閣府の調査から明らかになっている。

以上のように、沖縄県、久米島町、久米島海洋深層水協議会のこれまでの活躍と業績は、本学会賞に十二分に値するものと評価した。

2023 年度第 2 回理事会資料
令和 5 年 10 月 19 日
研究発表企画委員会

1. 2023 年度計画

1-1. 体制（全国大会実行委員会）

（研究発表企画委員）

清水 勝公 （清水建設(株)）

Katsunori.shimizu@shimz.co.jp (TEL03-3561-4327)

日向野 純也 （一社）マリノフォーラム 2 1

higano@mf21.or.jp (TEL03-6280-2792)

鈴木 進二 静岡県水産・海洋技術研究所

shinji1_suzuki@pref.shizuoka.lg.jp (TEL 054-627-1818)

大貫 麻子 （一社）海洋産業研究・振興協会

a-onuki@rioe.or.jp (03-3581-8777)

（開催場所対応委員）

実行委員長

大塚 耕司 （大阪公立大学）

otsuka@omu.ac.jp (072-254-9339)

親松 健太 （佐渡市地域振興部産業振興課）

sangyo@city.sado.niigata.jp (TEL 0259-67-7863)

畠山 和義 （佐渡市地域振興部産業振興課）

sangyo@city.sado.niigata.jp (TEL 0259-67-7863)

金子 晃大 （ラミコジャパン(株)）

a-kaneko@chuetsu-cs.co.jp (TEL080-3849-6507)

島村 正 （ラミコジャパン(株)）

t-shimamura@ramico.co.jp (TEL03-5821-5823)

土田 一彦 新潟県佐渡海洋深層水(株)

k-tsuchida@chuetsu-cs.co.jp (TEL080-3790-7442)

（支援委員）

有馬 博史 佐賀大学DOWAS事務局代表

arima@ioes.saga-u.ac.jp (0952-28-8877)

1-2. 第 27 回全国大会開

①大会名称：「海洋深層水 2023 佐渡大会」

②開催団体

主催：海洋深層水利用学会

後援：文部科学省、水産庁、新潟県（調整中）、佐渡市

協賛：ラミコジャパン(株)

新潟県佐渡海洋深層水(株)

③開催場所：あいぼーと佐渡 多目的ホール

住所：佐渡市両津夷 384-11』

T E L : 0259-67-7633

④開催日時：令和5年10月19日(木)、20日(金)

⑤プログラム概要：

・全体概要

曜日	18(水)	19(木)		20(金)		21(土)
時間帯	pm	am	pm	am	pm	am
(全国利用者懇談会)	2h					
オープニング		1hr		懇親会 2hr		
研究発表 20題		2hr	4hr	2hr		
(学会賞授与他)						
見学会						
(学習推進委員会)				学生向 3h		
				一般向 3h		

() : 関連イベント

・研究発表

2023年10月19日(木)

- 8:30~9:00 受付
- 9:00~9:20 オープニング
- 9:40~12:00 研究発表
- 12:00~13:20 昼食
- 13:20~16:30 研究発表
- 16:30~17:00 学会賞授与式
- 18:00~20:00 懇親会

2023年10月20日(金)

- 9:00~10:20 研究発表
 - 10:20~10:30 閉会挨拶
 - 10:30~12:00 昼食
 - 12:00~15:00 見学会(両津港に送迎)
- ※口頭発表は「20分/題(質疑含む)」。

⑥懇親会：令和5年10月19日(木) 18:00-20:00

⑦大会開催方式：現地開催+Web参加のハイブリット形式

・発表方式：現地口演+Web発表

⑧予算：下表の通り(3/30理事会決議事項)。

〈収入の部〉

・研究発表会開催費	研究会事業費	500,000
・大会参加費		
会員	4,000*55=	220,000
一般	5,000*3=	15,000

学生	2,000* 5=	10,000
収入合計		745,000
〈支出の部〉		
・会場費		0(開催地負担)
・備品類使用料	プロジェクター 等	0(開催地負担)
・設営費		
	看板 等	0(開催地負担)
・印刷費	要旨集 等	409,000
・消耗品費	事務用品 等	0
・事務運営費		236,000
弁当代	50食*1,000=	50,000
通信費	0通*1500円*2回=	0
人件費	Web支援人件費	30,000
その他経費(備品類補充含む)		156,000
・取水地特産品展示		0(地元生産者負担)
・特別講演者交通費・宿泊費		0
・ポスターセッション関連経費		0
・バス借り上げ経費(見学会参加者：50名設定)		100,000
支出合計		745,000

⑨申込状況(10/10時点)

申込者：81名(会員：63名、非会員：18名)

参加者：対面参加：65名、Web参加：14名、キャンセル：2名

研究発表：21題(対面発表：17題、Web発表：3題、ポスター発表：1題)

※海外：3題(韓国)

2. 2024年以降の計画

・室戸市(2024年)

・入善町(2025年)

※誘致先とは調整済。

※2026年度以降の誘致先活動を計画・募集

以上

20231019

論文編集委員会報告

委員長 五十嵐康弘

1. 委員の交代について

現編集幹事・東京海洋大学教授・石井晴人委員が 2024 年 3 月に退官されるため、後任幹事として佐賀大学准教授・有馬博史氏を推薦したい。ただし、有馬氏が担当している本学会事務局の引継ぎ業務の都合上、石井委員には 2024 年 6 月まで編集幹事を担当していただく予定となっている。

2. 論文投稿・審査状況

- 1 件の原著論文の審査が終わり、受理した（2023 年 6 月）。
- 1 件の原著論文を審査中（2023 年 3 月に投稿）

3. 23 巻第 3 号の出版

2023 年 8 月に出版された（原著論文 3 編，特別寄稿原著論文 1 件）。

4. 今後の出版予定

- 24 巻第 1 号は、第 27 回全国大会の講演要旨集として出版
- 24 巻第 2 号は、2024 年 5 月頃に出版の予定

学会賞受賞論文の掲載

- 2021 年度学会賞受賞論文（黄 秉益氏）執筆依頼中
- 2022 年度学会賞受賞論文（鈴木達雄氏）執筆依頼中

以上

2023 年 10 月 19 日

海洋深層水利用学会 ホームページ編集委員会 活動報告(2023 年度上半期)

ホームページ編集委員会 岡村 盡

1. 主な活動内容 ... ホームページ更新・メール配信 (以下、2023 年 4 月 1 日から 10 月 16 日分)

- ・ホームページ更新回数：9 回＋申込フォーム修正 1 回
- ・メール配信回数：8 回（＋再配信 1 回）（今年度予算：14 回）

1) 開催案内・報告等

- ①総会・理事会開催案内・報告
- ②全国大会（研究発表会）各種情報の HP 掲載、メール配信
- ③学会賞候補者募集
- ④会費請求
- ⑤大容量取水技術検討委員会 委員募集

2) 発刊物等掲載

- ①ニュースレター掲載（7 月）
- ②論文誌掲載（9 月）

3) 既存ページの更新・追加

- ①取水・分水施設情報の更新（伊豆赤沢）

2. 特記事項

特になし

以上

2023 年度海洋深層水利用学会・利用促進委員会活動報告

2023 年 10 月 19 日

利用促進委員会

2023 年海洋深層水利用学会全国大会における当委員会の活動

2023 年、佐渡で現地開催されることになった全国大会に呼応して、その前日 18 時から全国利用者懇談会を行うことになった。今回は、開催地の佐渡市産業振興課の畠山さん、親松さんのお二人に積極的に参画頂いて、Zoom による遠隔打合せで準備を進めた。この打合せには 2024 年の開催地である高知県海洋深層水研究所の河野さんも積極的に参加くださった。なお遠隔での講演の希望があったため、事務局の有馬先生に参加頂いて先の佐渡市のお二人を交えた遠隔開催環境の確認も遠隔打合せで対応した。これらの打合せは 5 月 9 日の第 1 回目を皮切りに、9 月 26 日に至る計 7 回行った。企画検討を通して出された、佐渡大会のみの活動内容に留まらずに継続性のある活動内容が望ましいとの提案を採択し、既に大会開催が決定している室戸、入善も視野に入れて下記を企画した。

佐渡大会の全国利用者懇談会は、その第 1 回目の企画を行う。

【当委員会の全国利用者懇談会における 3 ヶ年計画案】

総合テーマ 再発見！海洋深層水利活用

第 1 回テーマ 再発見！海洋深層水利活用 2023・佐渡

今、改めて考える海洋深層水利活用への期待

(利活用の未来を **Positive thinking** で周知・啓発)

第 2 回テーマ 再発見！海洋深層水利活用 2024・室戸

今、改めて考える海洋深層水利活用の現状

(利活用促進に向けての課題の検討)

第 3 回テーマ 再発見！海洋深層水利活用 2025・入善

今、改めて考える海洋深層水利活用の社会実装

(佐渡で語られた夢と室戸で抽出された課題を基に、入善で社会実装に向けた利活用のあり方を提案する)

第1回テーマ 再発見！海洋深層水利活用 2023・佐渡

今、改めて考える海洋深層水利活用への期待

地球環境が大きく変わりつつある中で、新しい時代に向けて、
海洋深層水は私たちの暮らしをどのように豊かにしてくれるのか？

日時:2023年10月18日(水)16:00-18:00

場所:あいぼーと佐渡・催事スペース

内容

以下の1.-3.の立場が異なる演者による講演の後、フリーディスカッションを行う

1. 学識者側が考える海洋深層水の利活用への期待

大塚耕司 先生(海洋深層水利用学会会長, 大阪公立大学副学長)

2. 取水者側が考える海洋深層水利活用への期待

佐渡市海洋深層水 伊藤 誠 様(佐渡市農林水産振興課)*

親松健太 様(佐渡市産業振興課)*

室戸海洋深層水 山崎 桂 様(室戸市産業振興課課長)*

入善海洋深層水 舟本 剛 様(富山県入善町キラキラ商工観光課課長代理)*

3. 利用者側が考える海洋深層水利活用への期待

久米島海洋深層水協議会 鷲足恭子 様(株式会社ジーオー・ファーム社長)

フリーディスカッション

なお*の演者には、本懇談会の講演にあたり、ご本人からの要望に従って講演依頼書を学会事務局から発行してもらい、当委員会からメール添付で送達した。

以上

2023 年度海洋深層水利用学会・利用促進委員会活動計画提案

2023 年 10 月 19 日

利用促進委員会

1. 2024 年海洋深層水全国利用者懇談会の企画構築

2023 年の理事会メール審議で承認が得られた当委員会の総合テーマ「再発見！海洋深層水利活用」の第 2 回目として、2024 年室戸大会では「再発見！海洋深層水利活用 2024・室戸」と題して「今、改めて考える海洋深層水利活用の現状」を取り上げる。これに先立ち、高知県海洋深層水研究所の河野さんから提案による、①「海洋深層水産業利用全国自治体協議会とジョイントした取り組み」を実現したいと考えている。

また、日本各地の取水地の利用者が会場に来訪して全国利用者懇談会に参加することは、実際上難しかった。そこで、この度のコロナ禍で汎用された②「全国利用者懇談会は、対面・遠隔のハイブリッド形式による開催を標準とすること」が出来れば幸いである。

当学会理事会で上述①、②の案件について、承認を得たのちに具体化に向けた検討に入る予定である。

2. 経費予算

今年度の活動費用として、20,000 円(上記活動経費分ほかとして)を計上させていただきます。

以上

日台韓国際交流委員会報告

委員長 高橋 正征
副委員長 安永 健

台湾関連

1. 台湾深層海水資源利用学会の理事長は昨年末の改選で元台湾海洋大学副学長の冉（ぜん）繁華教授が当選。任期は来年末までの2年。冉教授は水産養殖が専門で、農業部（本年農業委員会より昇格し、日本では農水省）の水産試験所と漁業署との関係が強い。佐渡大会には都合がつかず参加しないが、来年の高知大会には参加の意向。
2. 今年度の総会（研究発表会同時開催）は11月13日（月）に台湾海洋大学で、対面とオンラインによる同時開催。
3. 台湾における海洋深層水の民間活用の情報
 - ① 台湾セメントが和平発電所（石炭火力）で深層水プロジェクトを進行中。現在、大規模プロジェクトに必要な環境評価中（詳細は非公表）。第一段階として1MW - OTEC プラントを造り、最終的に10MW 規模建造の予定。
 - ② 台湾經濟部能源局主導で昨年から実行されている公民発電所（公民電廠、Community Renewable Energy Plant）プロジェクトを利用し、台東緑島で温泉水と深層水を組み合わせた200KWのOTECを計画中。水利署から退官した張楨驩元第一河川局局長が中心に進めていて、台湾電力が洋上風力よりも2元高い7.5元/kWhで買取る予定で、来年には計画・着工という。ちなみに緑島の火力発電のコストは10年ほど前の試算で13元/kWh。
 - ③ Transocean Fortune Integrator (Water) Pre. Ltd. 社（シンガポール）が中東オマーンのインド洋沿岸に深層水プロジェクトを展開する予定で、主に日量5万トンの海水淡水化による上水供給のほか、ミネラルウォーターや農業、水産への利用も計画。政府系ファンドと共同出資で8月に会社が設立され、これから台湾や日本の深層水利用会社から協力を得て商品開発に力を入れる予定。
 - ④ 台湾国内の海洋深層水の主要利用企業の動き：台湾肥料社はヨーロッパへの市場開拓、光隆社は国内シェアを伸ばして共に活発。ラッキーセメント社には目立った動きがない。アクアロハス社では設立者の陳氏が董事長を退い

て相談役となり、中国市場を主市場にしている新しい出資者が経営を引き継いで順調。

4. 福島第一原発処理水放流への台湾サイドの対応。台湾原子能委員会主導で震災直後から台湾周辺海域の放射性核種モニタリングを実施していて、処理水放流後はただちに「処理水由来のトリチウムは1~2年後に台湾周辺海域に到達し、4年後に最大濃度になるが、濃度は現在よりも低い見込み」という見解を発表（<https://www.nusc.gov.tw/newsdetail/publicopinion/6670.html>、モニタリング結果は <https://tworis.aec.gov.tw/>）。

台湾深層水資源利用学会は、原子能委員会の見解に加え、白書禎国立台湾大学教授（海洋物理学）の北太平洋中層水循環を起源とする台湾海域の深層水の循環時間約1000年をもとにして、影響は見られないという公式見解をHPで公表（<http://www.twdowa.org/23416263712084421578/2023>）。

韓国関連

1. 韓国海洋深層水利用学会大会は11月23日開催予定。
2. 江原道寒海性（海洋深層水）水産資源センターは2023年6月にスケートダラ種苗増産用の深層水取水管（4.9km沖、水深150m、5,000トン日）1本を増設。
3. 江原道陽陽郡で東原産業(大手マグロ産業)がスマート陸上養殖団地を造成中。慶尚北道で陸上型海洋深層水利用計画が検討中。

海洋深層水利用学会 2023 年度第 2 回理事会
総合戦略検討委員会（池上理事・井上理事）

2023 年 10 月 19 日（木）

（1）関係省庁との情報交換および連携（井上）

総合海洋政策本部事務局長の交代

村田茂樹氏から宮澤康一氏に交代しました。

総合海洋政策本部参加からの情報提供

佐藤参加から、推進本部事務局が海底資源探査の推進に関連して、南鳥島のエネルギーインフラとして OTEC の導入に関心があるという情報が提供された。

（2）海洋深層水利用に関する学術分野の推進（池上）

・外部資金への応募

新しい「学術変革領域研究（A・B）」への申請を進めるべき体制の準備を進めていたが、対応不足で、今年度申請に至らなかった。来年度の申請に向けて、早急に準備していく必要がある。

科研費以外の文科省の大型予算に、4 大学が連携して海洋深層水関連の研究で申請した。

（3）全国の深層水利用の学術分野での利用推進

全国の海洋深層水取水施設と全国共同利用共同研究施設 佐賀大学海洋エネルギー研究所が、協力して、可能な範囲で学術的な利用促進方法を引き続き検討

以上

2023年度第2回理事会資料
「産公学連携推進委員会」活動報告

2023/10/19 委員長 深見 公雄

2023年度事業計画

1. アンケート結果について、さらに解析するとともに共同研究実施の問題点を洗い出し、将来に向けた共同研究推進への提言を取りまとめる。
2. 研究機関のシーズと民間のニーズ調査
今年度実施出来なかった、大学や自治体等の公的機関における研究シーズおよび民間や自治体等におけるニーズの調査を行う。

このうち、今年度は2を中心に活動していく予定である。これまで、委員会内で議論した結果、ニーズやシーズをアンケート等で改めて調査するのではなく、当委員会の方で、これまでの産公学での深層水利用の現状を参考にして、まずは「産業界のニーズ」をとりまとめる。それらを公表したうえで、それにマッチしたシーズをお持ちの研究機関に手を上げてもらう、ということになった。

現在の状況としては、各委員から、考えられるニーズやその考え方等についてリストアップしてもらっており、これらを取りまとめつつある。今後は、当委員会での意見集約を図った上で、それらニーズのリストをDOWAS理事会および会員各位へ周知し、漏れているニーズ等が無いかを確認していく。その上で、それぞれのニーズに対する対応策（シーズ）を持ち合わせている（産）公学組織に申し出ていただくというプロセスを考えている。

20231019

第 2 回海洋深層水利用学会理事会学習推進委員会報告

委員長 大塚耕司

事務局 安永健

添付資料

1. 出前教室スケジュール
2. チラシ（子ども向け）

出前講座・実験タイムスケジュール (2023.10.20 畑野小5年生 5-6校時)

校時	項目		内容	時刻
5校時	あいさつとアイスブレイキング		<ul style="list-style-type: none"> ■ 海洋〇×クイズ ■ 硬度の異なる海洋深層水ミネラルウォーター「利き水」 	13:35～ 15:50
	テーマ 1	【講座】地球の深海の流れと海洋深層水	<ul style="list-style-type: none"> ■ いわゆる「海流」と呼ばれる表層の流れとは違う深海の流れ ■ 日本海の流れ 	13:50～ 14:00
		【実験】深海の流れを水槽で再現する実験 (海洋の熱塩循環)	■ 水槽を用いて、水温と塩分濃度の差によって生じる深海の流れ...「熱塩循環」を再現する	14:00～ 14:20
休み時間				
6校時	テーマ 2	【講座】海洋深層水の利用～持続可能な世界に向けて	■ 深海の水「海洋深層水」は科学的にどんな特性を持つのか。また、その特性はどう使われ、持続可能性に役に立つのか。	14:30～ 14:45
		【実験】海洋深層水を汲み上げて、その冷たさから電気を作ってみる実験	<ul style="list-style-type: none"> ■ サイフォンの原理による汲み上げを、水槽を用いて再現する ■ 利用法の一例として、汲み上げた水と温水を使って電気を作ってみる 	14:45～ 15:05
	質疑応答・クロージング・アンケート記入			

かいようしんそうすい 海洋深層水 ミニイベント

てんじ じっけん こうさく
展示・ミニ実験・工作

佐渡市は、世界で約40か所ある「海洋深層水」を取水・利用している場所のひとつです。今年、両津で第27回 海洋深層水利用学会全国大会「海洋深層水2023佐渡大会」を開催することから、その併設イベントとして、展示やミニ実験、工作コーナーを設けることとなりました。みなさまのご来場をお待ちしています！

日時：2023年10月21日（土）9:00～12:00

場所：あいぽーと佐渡 催事スペース

入場料：無料 ※事前申込も不要です

展示

【写真展示】

実物大！日本各地の
海洋深層水取水口で
捕獲された迷入生物



【動画放映：各地のとりくみ】

- 海洋深層水取水管の整備工事（入善町）
- 海洋深層水を用いたサツキマスの陸上養殖（高知県）
- 海水魚・サンゴ水槽用海洋深層水（尾鷲市）
- その他

ミニ実験

【やってみよう】

- 深海の流れを水槽で再現してみよう！
- 深層水の冷たさで〇〇〇〇を動かしてみよう！

工作

【浮沈子（ふちんし）を作ろう】

水の圧力で浮いたり沈んだりする魚型「ふちんし」を作ろう



2023年10月19日
事務局

(a)会員の動向について

入会者 ※2023年度に承認された新規会員は団体会員2団体、個人会員8名

【団体】

- ・若築建設株式会社 (担当者：山田 裕司)
- ・株式会社ミューズ (担当者：中島 洋)

【個人】

- ・鈴木信雄 (金沢大学)
- ・坂本 圭子 (国際協力機構(JICA))
- ・瀬川久志 (名古屋産業大学)

退会者 (※年度末退会予定)

【団体】 なし

【個人】 1名

- ・濱田 和久 (なし)

今年度会費請求履歴 (国内個人会員)

- ・1回目 6/12 個人会員各位宛メール配信 (メーリングリストにて個別配信)
- ・2回目 8/4 未納該当者へメールで請求書再送 (BCCで一斉配信)
- ・3回目 10/10 未納該当者へメールで請求書再送 (個別配信)

会費滞納者

【3年滞納】 2名

- ・金 庸桓 (※) ・段 文宏 (※)

【2年滞納】 1名

- ・魚 再善 (※)

【2022年度未納】 6名

- ・兼島 盛吉 ・渡辺 敬之
- ・金 庸桓 (※) ・段 文宏 (※) ・魚 再善 (※) ・安 熙道 (※)

※海外会員は猶予中

除 名 者※会費 2 年滞納

なし

2023 年 10 月 19 日時点での会員数 個人：109 人 団体：42（見込）

(b) 2024-2025 年度理事会選挙について

① 選挙のスケジュール

- ・ 全会員への理事候補者了承の確認(12 月)
- ・ 選挙用紙配布(1 月)
- ・ 選挙用紙回収・開封(3 月)

② 選挙委員会の組織

検討中

③実施方法

オンライン投票 (一部)郵送による投票

(1) オンラインは、専用 Web に名簿を掲示、投票(チェック)後に送信

(2) オンラインのシステムは一昨年度構築したものを再利用

(2) 郵送は従来の通りで行う。名簿を送付して投票(記入)後に返送

(c) その他